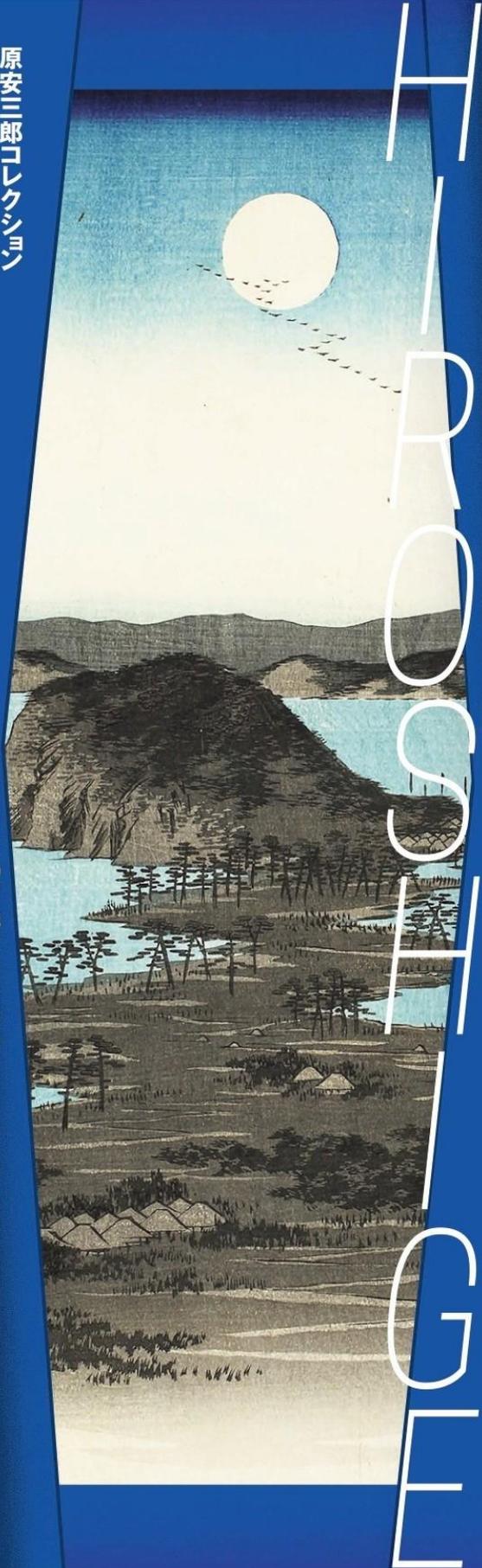


H
O
K
U
S
A
I

H
I
R
O
S
H
I
G
E



原安三郎コレクション
北斎×広重
 Hokusai and Hiroshige:
 Works from the Hara Yasusaburo
 Collection

2026年
 4月18日〔土〕
 6月14日〔日〕

開室時間 10時～18時（金曜日は19時30分まで）入場はそれぞれ30分前まで
 休館日 月曜日（5月4日開館）5月7日〔木〕
 前期展示 4月18日〔土〕～5月17日〔日〕
 後期展示 5月19日〔火〕～6月14日〔日〕
 ※前後期で展示替えを行います。
 主催 京都府京都文化博物館、毎日新聞社 「特別協力」 日本化学 「特別協力」 中外産業
 後援 公社京都府観光連盟（公社）京都市観光協会、KBS京都エフエム京都
 五 歌川広重（金剛・金沢八景夜景）部②「前期展示」、左 葛飾北斎（諸国遊通り下野黒鷲山きりりの滝）部②「後期展示」

京都文化博物館

THE MUSEUM OF KYOTO

〈報道関係者お問い合わせ先〉

「原安三郎コレクション 北斎×広重」広報事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
 TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：hokusaihiroshige@tm-office.co.jp

葛飾北斎（1760～1849）と歌川広重（1797～1858）はそれぞれ〈富嶽三十六景〉、〈東海道五拾三次之内〉といった名シリーズを手がけ、浮世絵における名所絵の可能性を大きく広げました。北斎は、大胆かつ独創的な構図によって自然の迫力と、その中に生きる人間をユーモラスに描いています。一方、広重は、穏やかな色彩感覚で季節の移り変わりや天候、そして人々の営みをあたたかな眼差しで表現しました。両者の作風は対照的でありながら、当時から多くの人々を惹きつけ、国内外に多大な影響を及ぼしました。

本展では、実業家・原安三郎（1884～1982）氏が蒐集した名品約220件を公開します。原氏は、蜂須賀藩の普請方をつとめた家系に生まれ、父親は徳島特産の藍を扱っていました。氏の審美眼にかなった作品は、摺りの発色が鮮やかに保たれ、今日もなお当時の色彩を伝えています。さらに、特別出品される肉筆画では、浮世絵師の筆技を間近にご覧いただけます。

歌川広重の〈富士三十六景〉シリーズなど、本コレクションとして初公開の作品も数多く含まれます。名所絵の名品が揃う貴重な機会を通して、北斎と広重が描いた江戸の豊かな世界をご堪能ください。

原安三郎コレクションとは

財界の重鎮として経団連常任理事などの要職をつとめ活躍した日本化薬株式会社元会長の原安三郎（はら・やすさぶろう／1884～1982）氏が蒐集したコレクションです。同コレクションの中心である浮世絵は、大正のはじめに横浜の宣教師から譲り受けたものを母体として、長年にわたり集めていったものと伝えられます。2005年に初公開されると、一人の蒐集家の所蔵品としては、質の良さと量の多さにおいて最大級の発見と言われました。

特に、誰もが知る北斎〈富嶽三十六景〉や広重〈東海道五拾三次之内〉など、いわゆる「揃物」^{そろいもの}（シリーズ）が丹念に蒐集されていることが特徴です。本展では、約20年ぶりのラインアップで、北斎や広重の名品を揃って紹介します。また、肉筆浮世絵においても、米国人ウィリアム・ピゲローの旧蔵品をはじめ、貴重な作品が多く含まれています。

本展のみどころ

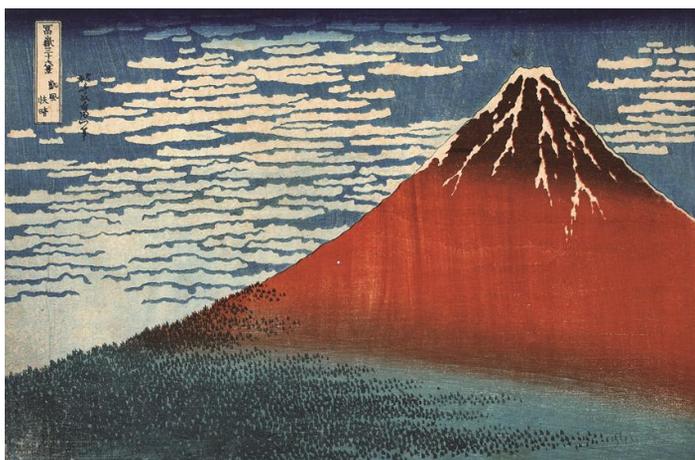
- 名所絵シリーズで全国を旅する展示。
北斎と広重の構図の面白さを堪能！
- 江戸期の鮮やかな摺色がよく残る作品群。
藍色の美しさに注目！
- 原氏の慧眼に焦点を当て、初公開の肉筆画も紹介！

第1章 北斎

葛飾北斎（1760～1849）は、江戸の本所割下水に生まれ、^{ほんじょわりげすい}数え19歳で浮世絵師の勝川春章に入門、90歳で世を去るまで絵師として活躍しました。最もよく知られているのは、70歳頃から刊行された錦絵の名所絵シリーズでしょう。原安三郎コレクションには、この絶頂期の主要な名所絵がほぼ網羅されています。〈富嶽三十六景〉、〈諸国瀧廻り〉、〈雪月花〉、〈諸国名橋奇覧〉、〈千絵の海〉といった著名なシリーズが、「揃い」で所蔵されているのは極めて貴重です。

摺りがシャープで保存状態も良好な作品が多く、コレクションに対する原氏の並々ならぬ熱意がうかがわれます。本展では、上記の名所絵シリーズに加え、怪談をテーマとした〈百物語〉や富士を様々な角度から描いた絵本『富嶽百景』3冊をあわせて紹介します。

富士山を大迫力で描いた、 北斎の代表作の一つ

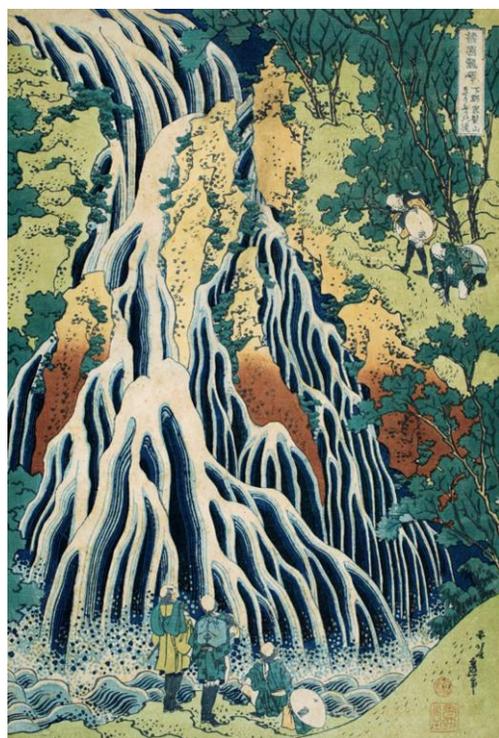


葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》【後期展示】

まさに雲にかかる橋！ 修験道霊場の神秘を描く



葛飾北斎
《諸国名橋奇覧 足利行道山くものかけはし》
【前期展示】



葛飾北斎《諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの滝》
【後期展示】

彫師・摺師の構想力に加え、
北斎の技術力も必見

空に輝く星の表現は、 江戸時代には珍しい。 水流の幾何学的な表現は必見！



葛飾北斎《千絵の海 甲州火振》【後期展示】

第2章 広重

門の向こうに、江戸時代の喧騒を垣間見る広重の代表作



歌川広重《東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景》
【前期展示】

歌川広重（1797～1858）は、江戸の八代洲河岸の定火消同心の長男として生まれ、数え15歳で浮世絵師の歌川豊広に入門。生涯にわたり名所絵シリーズを多く手がけ、第一人者として活躍しました。とりわけ有名なのは、出世作〈東海道五拾三次之内〉（保永堂版）でしょう。

原安三郎コレクションには、広重の主要な名所絵シリーズの多くが「揃い」で所蔵されています。本展では〈東海道五拾三次之内〉（保永堂版）、〈京都名所之内〉、〈雪月花〉、〈富士三十六景〉の4つのシリーズを揃って紹介します。

立体感と静けさとを見事に表現した逸品



歌川広重《武陽金沢八勝夜景》【前期展示】



歌川広重《富士三十六景 東都両ごく》
【後期展示】

手をかざして桜を見上げる人々が小さく描かれている。市井の人々の息遣いを表すことこそ広重の優しい魅力

夜景と雨は広重の十八番



歌川広重《京都名所之内 あらし山満花》
【前期展示】



歌川広重《東海道五拾三次之内 沼津 黄昏図》
【後期展示】

こんなに違う！ 北斎×広重

北斎と広重は、同じ風景でも、全く異なる構図で描くなど、完成作品には大きな違いがあることがしばしばあります。

愛知県岡崎市の矢作川（やはぎがわ）に架かる矢作橋とその周辺の情景を描いた作品を対比してみましょう。



葛飾北斎《諸国名橋奇覧 東海道岡崎矢はきのはし》
【前期展示】



歌川広重《東海道五拾三次之内 岡崎 矢矧之橋》
【前期展示】

橋を思い切り大きく描こうとした北斎と広重。完成作にはこれだけの違いがあります。

現代では北斎の奇抜さが強く目を惹くかもしれません。広重はモチーフをできるだけ省略し、向こう岸に城を入れることで名所絵としての伝統を受け継いでいます。

同じ場所を描いた2人の作品をぜひ比べてお楽しみください。

特集 原安三郎の慧眼

原安三郎（1884～1982）氏が蒐集した作品は、北斎や広重の錦絵だけに留まりません。コレクションには、浮世絵師たちが1点ずつ直筆で描いた肉筆浮世絵も多く含まれます。絵師の名前を概観すると、江戸初期から近代に至る体系的なコレクションであることが理解され、原氏の学究肌な一面もうかがえます。

本展では、画系的に北斎へとつながる宮川長春や勝川春章、広重へとつながる歌川豊春や豊広のほか、上方で活躍した月岡雪鼎による肉筆浮世絵を紹介します。

初公開

上方浮世絵の力！漢詩と見立て美人の知的な魅力



月岡雪鼎《野辺美人図》【前期展示】

歌川派の祖による作品。豪華絢爛な着物が見どころ



歌川豊春《遊女と禿図》【後期展示】

開催概要

展覧会名：特別展「原安三郎コレクション 北斎×広重」

会 期：2026年4月18日（土）～6月14日（日）

【前期】4月18日（土）～5月17日（日）

【後期】5月19日（火）～6月14日（日） ※前期・後期で展示替えを行います。

会 場：京都文化博物館（〒604-8183 京都市中京区三条高倉）

開室時間：10:00～18:00（金曜は19:30まで）※入場はそれぞれ30分前まで

休 館 日：月曜日（5月4日は開館）、5月7日（木）

入場料金：

（税込）

	一般	大高生	中小生
当日	1,900円	1,300円	700円
前売・団体	1,700円	1,100円	500円

※未就学児は無料（ただし、要保護者同伴）。

※学生料金で入場の際は学生証をご提示ください。

※障がい者手帳などをご提示の方と付き添い1名までは無料。

※上記料金で2階総合展示と3階フィルムシアターもご覧いただけます

（ただし、催事により別途料金が必要な場合があります）。

※前売券は2026年2月17日（火）10:00～4月17日（金）まで販売。

販売場所：京都文化博物館、公式オンラインチケット（etix）、

ローソンチケット（Lコード：55945）、チケットぴあ（Pコード：687-401）、

イープラス、セブンチケット（セブンコード：114-095）、CNプレイガイド、近鉄駅営業所（ほか）

主 催：京都府、京都文化博物館、毎日新聞社

特別協賛：日本化薬

特別協力：中外産業

後 援：（公社）京都府観光連盟、（公社）京都市観光協会、KBS京都、エフエム京都

展覧会公式サイト：https://www.bunpaku.jp/exhi_special_post/20260418-0614/

※本展は、京都会場を第1会場として、以降、徳島県立近代美術館（7月25日～9月23日）、秋田県立近代美術館（10月10日～12月6日）、静岡市美術館などを巡回する予定です。

〈報道関係者お問い合わせ先〉

「原安三郎コレクション 北斎×広重」広報事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：hokusaihiroshige@tm-office.co.jp